

渋谷区橋りょう長寿命化修繕計画（第3次：2022年～2026年）

2025年11月
渋谷区 土木部 道路課

背景・目的と第3次計画への改定

- 背景・目的

橋りょうの老朽化が進行し、補修に伴う**維持管理費用の増大が懸念**されます。そのため、従来の**事後保全型管理を予防保全型管理へ転換**することで**安全性の確保と財政負担の軽減・平準化**を図ることを目的としております。
- 改定経緯

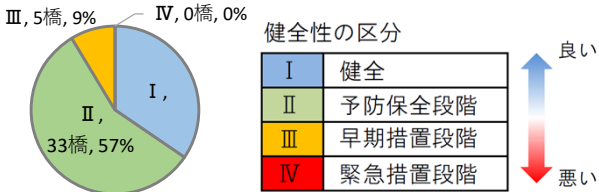
第2次計画（2017年～2021年）に基づき、「点検」、「補修」、「耐震補強」に取り組んでまいりました。この度、**定期点検結果（2020年）に基づき橋りょうの現状を再整理**したことを踏まえ、**第3次計画へと改定**します。

計画対象58橋の現状

- 健全性

定期点検の結果、**5橋が健全性Ⅲ（早期措置段階）**であり、優先的に**大規模な補修等の措置（部材の交換や架替え）を実施すべき段階**にあります。
- 耐震性

首都直下型地震に備え、**落橋を防止するための措置が必要な橋りょうが11橋**あります。



予防保全型管理への転換に向けた基本方針

- 方針1

首都直下型地震に備え、効率的な耐震補強を推進

落橋を防止するための措置を実施

【耐震補強事例】

首都直下型地震に備えた落橋を防止するための措置
- 方針2

橋りょうの老朽化に対し、計画的な点検や積極的な補修を推進

【点検】 日常点検：1年に1回程度、渋谷区職員にて実施
定期点検：5年に1回、有資格者にて実施

【補修】 健全性Ⅲ：大規模な補修等の措置を優先的に実施
健全性Ⅰ、Ⅱ：予防保全的な措置（ひび割れ補修等）を実施

【補修事例】

補修前
コンクリートが劣化し、内部鉄筋が露出

補修後
鉄筋を防錆処理し、コンクリートで修復
- 方針3

計画を加速化させるため、新技術の活用などを推進

・新技術の活用により、効率的な点検や補修を実施
2026年度までに4橋の補修工事において新技術を採用し、工事費を約2.5千万円縮減。

・橋りょうの在り方を積極的に見直し、財政負担を軽減
下水道に跨る道路橋を下水道施設に適した構造へ更新し、東京都へ移管することで合理的な管理が実現。移管により、1橋1回の定期点検費用約140万円及び維持補修費用を削減。2029年度までになかよし橋を集約撤去・移管予定。

・事業特性に応じ、適切な発注方法を積極的に採用

【新技術の活用による点検の効率化事例】

従来技術
高所に有資格者が近接して点検

新技術
高性能のカメラで地上から点検

第3次計画の実施プログラム

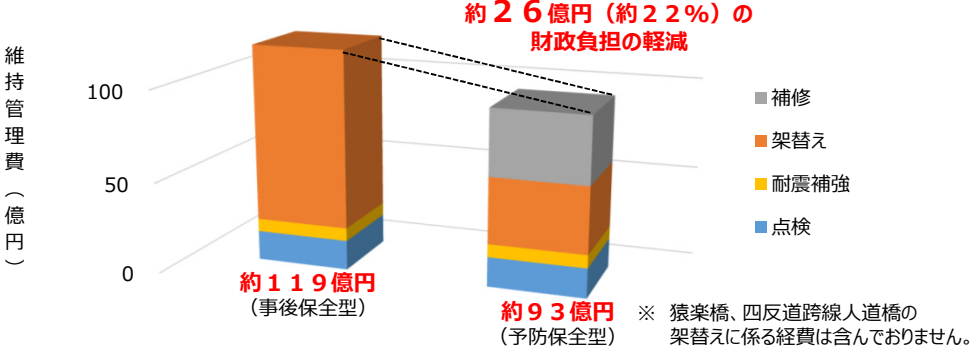
第3次計画（2022年～2026年）においては、下表に記載の取り組みを推進します。
なお、下表に未記載の橋りょうについては、財政負担の平準化の観点より、2027年度以降に措置に着手します。

橋りょう名	健全性	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年以降
①猿楽橋	Ⅲ	架替えを推進					
②四反道跨線人道橋	Ⅲ						
③なかよし橋	Ⅲ	橋りょうの在り方を見直し（下水道施設化）					
④新豊沢橋	Ⅲ	工事					
⑤氷川橋	Ⅲ	設計・工事					
⑥原宿陸橋	Ⅱ		設計・工事				
⑦恵比寿橋	Ⅱ			設計・工事			
⑧山下橋	Ⅱ			設計・工事			
⑨庚申橋	Ⅱ						
⑩桜橋	Ⅱ						
⑪徒歩橋	Ⅱ					設計・工事	
⑫稲荷橋	Ⅱ						
⑬八幡橋	Ⅰ					設計・工事	
⑭第三号橋	Ⅰ						

※ 健全性Ⅲの橋りょうの措置（架替え、補修など）を最優先

財政負担の軽減効果

本計画の推進により、安全性の確保だけでなく、従来の事後保全型管理と比較し、今後50年間で**約26億円**の財政負担の軽減効果も期待されます。



渋谷区橋りょう長寿命化修繕計画（第3次：2022年～2026年）

2025年11月
渋谷区 土木部 道路課

